



## 若木新聞

広尾中学校 生徒会本部役員  
鹿野 芯平 中井 春香  
来嶋 花恋 野中 理恵子  
菊地 麻友 山田 美優

### 会長から

寒さが厳しい日が増え、私は、コタツから抜け出せない日が続いています。防寒対策をしっかりと体調管理に努めましょう。

さて、先月に行われた若木祭～舞台発表の部～では、練習してきた成果を存分に発揮することができましたか？私のクラスでは、和やかな雰囲気の中で練習を重ねていましたが、本番が近づくにつれ、クラス全員の緊張感が高まってきました。皆さんにとっても、金賞に向かって必死に練習した経験は、かけがえのないものになったと思います。

2年生は、12月14日(火)に、校外学習を行いました。浅草や国立科学博物館等、それぞれの班が自分で見学をする場所を決め、計画から実施まで、生徒が主体となって行いました。

悪天候で寒さが厳しい日でしたが、事前学習で調べたことを踏まえて、実際に経験することで学びを深め、一人一人が楽しいと思える校外学習にすることができました。この活動を通して、学年全体が成長できたと思います。

これらのように、様々な行事を通して成長できたところをさらに伸ばして、今後の学校生活に生かしていきましょう。

2年 鹿野 芯平

### 生徒総会を終えて

11月25日(木)の6校時に、生徒総会を行いました。各委員会に対する質問や提案を、全校生徒で考えることのできる貴重な場でした。当日は、全校生徒が集中して、学校をより良くしようとする姿が見られました。生徒総会を通して、より学校に対する意識が高まったと思います。また各委員会で、各クラスからの質問の回答を考えたり、原稿を作ったりと、当日までの準備もたくさんあったと思います。生徒総会が成功したのは、皆さん一人一人の努力のおかげです。今後もより良い学校づくりに努めていきましょう。

2年 野中 理恵子

### 落ち葉掃きのご協力ありがとうございました！

12月15日(水)から17日(金)まで落ち葉掃きがありました。整美委員を中心に、多くの参加者が広尾中学校の周りの道や、校庭を清掃しました。たくさん落ち葉が積もっていましたが、今回の落ち葉掃きでとてもすっきりしました。参加した1、2、3年生の皆さんと、整美委員の皆さんのおかげです。朝早くから本当にお疲れ様でした。今後も、このような専門委員会とコラボしたボランティア活動に、御協力よろしく申し上げます！

2年 中井 春香



## 若木祭 お疲れ様でした！

今回は、11月19日(金)に行われた若木祭～舞台発表の部～を振り返って、3年生の実行委員の皆さんにコメントをいただきました。

どのクラスも精度が高く、表現が豊かでした。3年生になって他のクラスの合唱を見ると、クラスごとの個性や特徴がはっきり見え、集団で舞台を創り上げる達成感を再確認しました。舞台発表は、個人としても集団としても努力し葛藤する場であり、どんな形でもかけがえのない思い出だと思います。

<3-1 藤尾 翔喜>

皆さん、最高の若木祭を作り上げることができましたね！一人一人が全体のために動けたからこそその結果だと思います。若木祭で培った力を無駄にせず、残りの3か月間も引き締めていきましょう。

<3-1 斎藤 柚希>

全員で歌えてとても楽しかったです。私は若木祭実行委員として活動する中で、様々な人の隠れた努力を知ることができ、とても感動しました。そして自分も頑張ることができました。皆さん、ありがとうございました。

<3-2 山本 空>

若木祭お疲れ様でした!!!当日は、どのクラスも素晴らしい合唱でした。私は若木祭実行委員として様々な苦勞を乗り越えたと、大きな達成感を得ることができました。来年も、最高の若木祭にするために1、2年生は頑張ってください！

<3-2 中村 紗奈>

1年 菊地 麻友

## 車いすバスケット ボール

11月17日(水)に、パラリンピック車いすバスケットボール元日本代表選手の三宅克己さんが来校されました。

三宅さんは事故で腰の骨を折り、車いすの生活になりました。生きることを諦めかけましたが、周りの応援とスポーツの力に救われ、努力を積み重ねてパラリンピックに出場された選手です。

私は実際に車いすに乗り動いてみたり、仲間にパスを試してみたりしました。思うようにできなくて、とても大変でしたが、新鮮さと楽しさを味わうことができました。また三宅さんのお話を通して、スポーツが私たちに希望を与えてくれることや、周りの応援が大切であることを学びました。

自分が将来車いすを使うことになるかは分かりません。ですが、困難にぶつかったときに、スポーツの力を思い出したら、希望が生まれ、何かが変わるかもしれないと思って、これからも頑張っていきたいです。

1年 山田 美優



## ペットボトルキャップの行方

11月25日(木)に行われた生徒総会で、「回収したペットボトルキャップは、どのような流れでワクチンとして支援国へ送られるのか？」という質問があったので、そのことについて紹介します！

- ①回収されたペットボトルキャップを業者に送り、業者が資源として売る。
- ②売却した利益がJCV（世界の子供にワクチンを 日本委員会）に寄付される。
- ③JCVとユニセフが連携して、ワクチンを発注する。
- ④ワクチンが支援国に送られる。

という流れになっています。

来年もペットボトルキャップを回収する機会がありましたら、御協力をお願いします！

1年 来嶋 花恋